

経済 対策

テイクアウト支援 拡充

～店舗紹介のみ『0円事業』を転換・前進へ～

2月7日から、市内飲食店での『テイクアウト・デリバリー応援事業』がスタートします。支援を頑なに拒む市長も、やっと重い腰を上げました。

コロナ禍のもと、流山市独自の本格的な経済対策は、融資支援、テナント（貸主）支援に続き、3弾目。店舗を紹介するだけの『0円事業』から予算を付けた支援に転換・前進です。

予算規模は3700万円余、千円毎に300円を割引する仕組み。各店舗で直接使えます。2月3日時点の利用可能店舗は51件、今後も随時増える見込みです。

しかし令和3年度予算案には盛り込まれておらず、4月以降は不透明です。世論と運動を広げ、新年度にも継続させましょう。

市内事業者では、しんぶん赤旗 (<https://twitter.com/j>)



opchiba/stat us/13 50800 26570 88593 93/pn oto/1) の取材にもご協力いただき、コロナ禍でも懸命に営業を継続し、店舗にのみならず、仕入れ先の事業者や農家の支援も要望していました。

昨年2月から12回もの対市要請

日本共産党市議団は、感染対策や経済対策の拡充に向け、議会内外で活動。市民や現場の声を届けてきました。

テイクアウト支援では、お店紹介にとどまっている市に對し、昨年12月16日（零細の飲食店を中心に、テイクアウト支援を強化し、年の瀬を乗り越える取り組みを強化すること等）に要請。取り組みを後押ししてくれました。

コロナ禍の経済対策…柏市は20倍

懸命に、ひたむきに、そして地域や仕入れ事業者なども考慮し、奮闘してきた事業者が行政を動かしました。同時に、柏市独自の経済対策は昨年だけで約20億円規模（融資支援を除く）。流山市の20倍の経済対策です。流山市の超消極的姿勢を変え、コロナ禍を克服するための感染対策・経済対策の拡充へ、お力をお貸しください。



日本共産党 流山市議会議員

小田桐たかし

検査体制

高齢者の検査補助 高齢者施設の職員検査 実現へ

昨年、高齢者施設等のクラスター対策、小児・高齢者インフルエンザワクチン接種助成（自己負担なし）の実現に続き、高齢者PCR検査補助が2月1日スタートしました。また、千葉県の動きに合わせ、高齢者施設スタッフへのPCR等検査についても予算化の動きが出ています。医療・介護のスタッフが繰り返し要望してきた成果です。

日本共産党小田桐たかし市

議は、「昨年8回開かれた市議会総務委員会では、市長提案の補正予算案に対し、繰り返し提案してきた修正案に盛り込んだ事業です。委員会では、たった一人でもできる提案権を活かしました。委員会では、たった一人でも、市民の命と健康を守り抜くための事業であり、議会外にいる医療従事者をはじめ市民の切実な願いに支えられ、励まされました」と話しています。

感染急増でも、 予算削減を優先

「早く、強く、短く」…テレビでおなじみの岡田晴恵氏（白鷗大教育学部教授）感染症予防対策の「3原則」を繰り返し発言。しかし、流山市の高齢者検査補助は基礎疾患を有し、さらに65才以上に限定。これでは、効果も限定的となってしまういかねません。

松戸市は31.9人（当初5月31日1.9人・1.7倍）となり、流山市民への感染急拡大が明らかとなっています。（松戸市調査）

また、高齢者等スタッフへの検査も松戸市では12月14日実施。予算削減ため、千葉県の動きをじっと待っている流山市とは対照的です。

さらに、クラスター（感染者5人以上）発生も頻発している医療機関は蚊帳の外に。厳しい医療機関へ、さらに自腹で検査を求めているのです。

県民・市民の世論と運動を広げてください

埼玉県では医療スタッフも検査対象を拡大しています。命と健康を守り、コロナ禍克服へ一緒に声を上げていきましょう。

松戸市は、12月1日、65才以上の全高齢者、64才以下の基礎疾患を有する人、教育・保育施設勤務者、福祉施設勤務者への検査補助を創設し、1月5日～介護・障害福祉サービス従事者の家族（松戸市内在住）、受験生にも広げ、2月1日からは全市民を対象を拡大させています。

その結果、市民1万人当たりの感染者数（累計・10月1日～2月4日）は、流山市が35.4人（当初～5月31日0.6人・59倍）に対し、